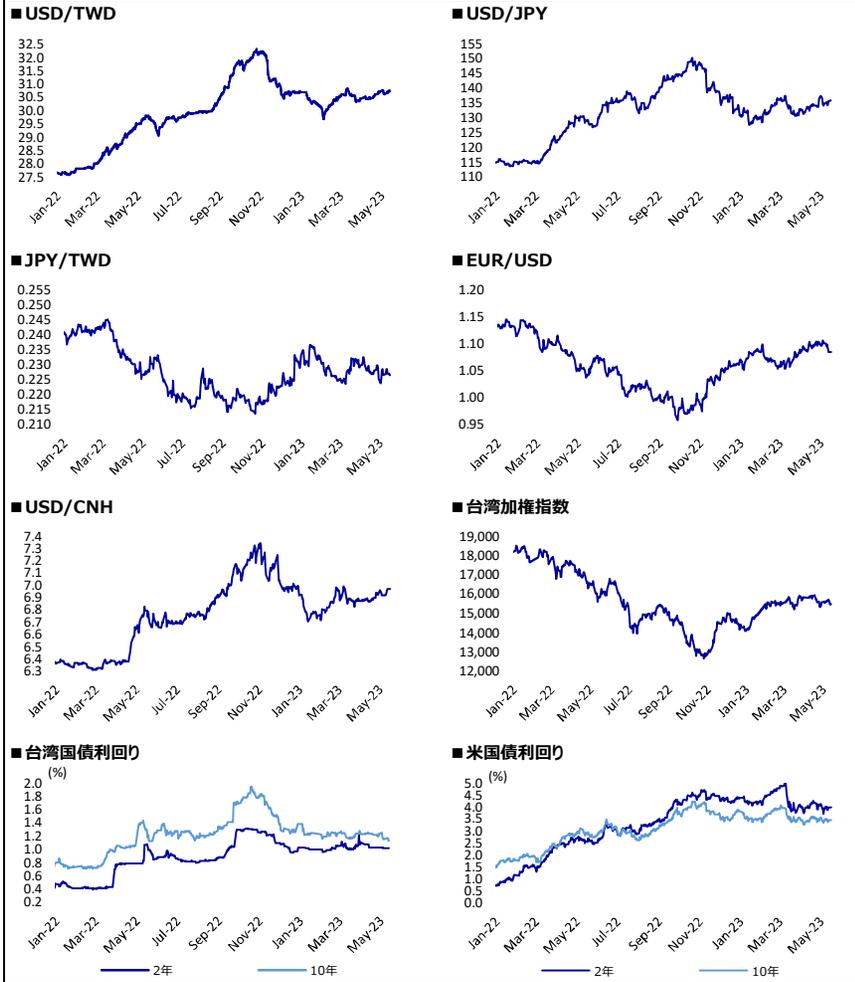


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは上昇。週初5/8は30.640でオープン後、大きな動きはなくレンジで推移。5/9は国内投資家と見られるドル買いから30.7台をつけたものの、輸出企業のドル売りが上値を押さえた。5/10は台湾株売りの台湾ドル売りで30.73付近まで上昇。5/11は台湾株が買い戻され、30.68付近まで下落したものの、台湾加権指数が下げに転じると台湾ドル売りが優勢に。海外への投資資金の送金もあり、30.74付近まで上昇。5/12も台湾株の下落と共に台湾ドルが売られ、30.785まで上昇。しかし、輸出企業のドル売りもあり上値は重く、最終的には先週比0.4%ドル高台湾ドル安の30.758で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は77.2億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は上昇。週初5/8は134.88でオープン後、前週末の堅調な米雇用統計を受けてドルが買われると135円台前半まで上昇。しかし、その後は金融不安や米国の債務上限問題が意識されてか、上値は重く、米4月CPIの発表を週先に控える中、135円ちよどを挟んだレンジで推移。5/9は米債務上限問題から米金利が低下すると134円台後半にじり安推移。しかし、翌日に米CPIの発表を控え、警戒感から米金利が反転すると135円台前半に戻した。5/10は米金利が上昇する中、ドル円は135円台半ばまで上昇。注目の米4月CPIの結果は、総合ベースで前年比+4.9%と市場予想を下回ると、米金利動向につられ134円台前半に急落した。5/11は前日の米4月CPIの結果を受けたドル安から一時134円台を下回った。しかし、海外株式市場が堅調に推移すると円が売られ、134円台後半まで上昇。その後発表された米4月PPIが前日のCPIに続き、予想を下回ったことでインフレ減速が意識され、一時133.74まで下落。一巡後、米金利が上昇すると134円台に戻した。5/12は米金利の上昇につられ134円台後半まで上昇。5月ミシガン大学消費者信頼感指数の5〜10年先のインフレ期待が予想を上回り、また、新規失業保険申請件数の修正もあり、ドルが買われると135.76まで上昇。その後も高値圏で推移し、最終的に先週比0.7%ドル高円安の135.76で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：30.650-30.900
今週は底堅いと思込。台湾株が軟調に推移しており、台湾ドル売りが優勢となるであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：134.00-137.00
今週はレンジでの推移を見込む。先週発表された米4月CPI,PPIは市場予想を下回り、インフレ減速と捉えられた一方、5月ミシガン大消費者信頼感指数ではインフレ期待の高まりが警戒された。また、政治面では米債務上限の問題もあり、ドルの買い材料、売り材料が混在しており、一方には動きにくいであろう。

今週の予定

5/15 (MON)	米5月ニューヨーク連銀製造業景気指数
5/16 (TUE)	米4月小売売上高、米4月鉱工業生産
5/17 (WED)	米4月住宅着工件数・建設許可件数
5/18 (THU)	米5月フィラデルフィア連銀景況指数、米4月中古住宅販売件数
5/19 (FRI)	台湾1Q経常収支

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなされるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。